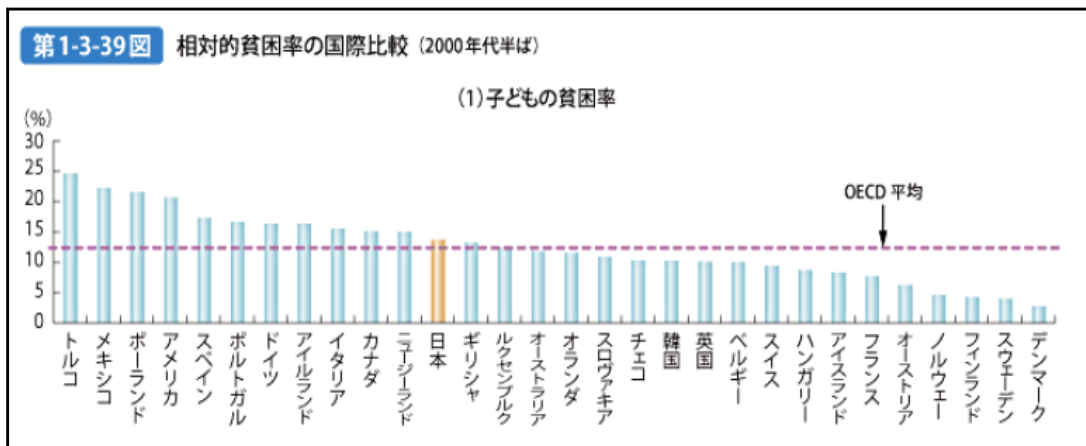


■□■□■とっても気になること■□■□■

16. 3%、325万人、6人に一人・・・これは昨年度の日本のこどもの（相対的）貧困率の数字です。特に一人親家庭での貧困率は60%に上るといわれています。



上の表は、内閣府の平成 26 年版『子ども・若者白書』に掲載されている「子どもの貧困」より抜粋されたものです。そこには、「OECD によると、我が国の子どもの相対的貧困率は OECD 加盟国 34 か国中 10 番目に高く、OECD 平均を上回っている。子どもがいる現役世帯のうち大人が 1 人の世帯の相対的貧困率は OECD 加盟国中最も高い」と、一人親家庭の貧困の問題が指摘されています。

このように、最近は貧困や格差という言葉が平気で使われるようになりましたが、つい数年前までは、こうした言葉が当たり前に使われることはなかったように思います。「貧困」「格差」という事実とうすうすみんな気がついているのに、またはもう目の前にそうした現実が近寄っているのに、公然と口にされることはありませんでした。それは、ちょうど私たち「Ed.ベンチャー」が立ち上がったころであり、新自由主義が万能の特効薬のように政治家や経済人にもてはやされていた時期でもあります。「痛みを伴う改革」のもと、自己責任ばかりが声高に叫ばれ、本当に傷つき、血を流し、倒れたのはいったいどれだけの人のためでしょうか。自己責任を叫んでいた人たちはより豊かに生き延び、その一方で自己責任を押し付けられた人々は、仕事を奪われ、または本当に安い非人間的な労働環境で働かされ、貧困や格差の中に沈んでいきました。「豊かさ」という言葉自体が、今は独占的に使われる言葉となってしまったのです。

しかし、とても気になるのは、今度は何の痛みも感じることなく、平気で「貧困」「格差」という言葉が使われるようになったことです。まして、政府や内閣府からこの言葉が出てくるとき、「開き直ったのか」「予定通りと思っているのか」と素直になれない気持ちで聞くことになっています。それは、本当の意味での「危機感」がそこにはないからだというだけでは、間違いのないことだと思います。

では、この問題を危機感をもって捉えているのは誰なのでしょう。自分自身も含めて、私たちの多くの気持ちは、実は「自分はその中に入らない」問題として受け止めているのではないのでしょうか。または、実際に貧困の中にいる人たちは、その苦しさにあえぎつつもあきらめ、心を押さえつける日々になっているのではないのでしょうか。そしてこのまま時がたてば、もう間もなく、「貧困」は、当たり前のこととして許容されたものとなっていってしまうに違いあ

りません。わずか10年で、私たちの社会の真ん中に、「貧困」が、でんと涼しい顔をして座ることになってしまったのです。

けっして、貧困の問題は「個人の問題」ではありません。今でも、6人に一人の子どもの未来が、明らかに狭く、細いものになっているのです。

Ed.ベンチャーの設立趣意書にある「弱い立場の子どもたち」には、貧困状態に置かれた子ども達も入るに違いありません。子どもたちの未来に少しでも可能性を開くため、「貧困に置かれた子どもたちの学習保障」をしっかり考える時期に来ているのかもしれないと思います。

■□■□■皆さんはどう思います？■□■□■

公職選挙法が改正され、18歳からの参政権が認められました。一方では頷き、一方では首をひねる複雑な思いでいます。

この改正を受けて、早速、学校現場での「政治」教育が大きな話題になってきています。ここで感じるいくつかの疑問をちょっと並べてみました。

1. 根本的に、外国籍の子どもたちのことは忘れていませんか？ 政治教育だか、政治参加教育だか、主権者教育だか分かりませんが、目の前の生徒や子どもたちの中に「投票できる人と、その権利が与えられていない人がいる事実」を学校ではどのように教えるのでしょうか？・・・疑問！
2. 急に主権者教育が叫ばれ、政治の中立性も現場に圧力とも思えるような状態で下りていきそうですが、そもそも、20歳選挙権の今まで、そんなに主権者教育を大人の皆さんは受けてきたのでしょうか？それとも18歳じゃまだ未熟だと思うからでしょうか？これまたしかし、未熟であると考えれば、18歳で選挙権を与えることと矛盾していませんか？・・・疑問！
3. 若者の投票率が低いことが問題だから、投票率を上げるためにも18歳以上に選挙権を拡大しよう・・・という理屈は、どこかおかしくないでしょうか？きっと投票率はもっと下がるとは思いますけど・・・疑問！（それとも、何か別の目的があるのかな？）

どうですか？みなさんはこれらのことを疑問に思いませんか？（こうは言っても、18歳までの選挙権拡大は基本的には賛成の気持ちはありますけど・・・なぜかすっきりしないのです）

【連絡黒板】

◎理論学習会 「大和に暮らす外国人の子どもを知る」

8月24日（月） 19:15～21:00 富士見文化会館 参加費 1000円

◎学校外での外国人の子どもたちの支援活動に顔を出してみませんか？

外国人の子どもたちは、学校や教室で見せる顔とは違った顔をして、活動に参加しています。子どもたちにいろいろな表情があることを知ることは、豊かな教育環境を準備する上でとても重要だと思います。是非、様子を見に来てください。

○Ed.ベンチャー主催 エステレージャ・ハッピー教室 土曜日午前

(連絡先 角替 090-7219-7362)

○すたんどばいみー主催 小学生教室（土曜日午後）、中学生教室（月曜日夕方）

(連絡先 チューブ 090-6497-8128)

■□■□■理事の独り言■□■□■

多くの子どもが放課後部活へ急いでいく中、先生と話をしながらゆっくりと荷物整理をして部活に行く子がいる。部活前のこの時間がこの子には自分のペースを取り戻す時間なのか、のんびりとしたペースがこの子らしさなのかとも思いつつ、「部活に遅れる」と急がせている。放課後何気ない話をして過ごすことが久しぶりだと感じる。新採用の頃にはあった時間が今は無くなっていることに気づく。忙しさを理由にはいけないと改めて思う。

(SH)